

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	マラウイ中部リロングウェ県マリリ地区における保健・医療・衛生及び栄養状態の改善を通じて、マラウイ人専門家の育成を図り、人々が健康的な生活を営めるよう、持続的な村落内医療支援モデルを構築する。
(2) 事業内容	中間報告対象期間 2012 年 12 月 13 日～2013 年 4 月 30 日 (イ) マラリア対策 ベースライン調査において、マラリア予防、マラリア罹患時の対応、蚊帳普及率に関して調査をしたうえで、マラリアー斉検査・治療を実施し、マラリア罹患率は全体で 59.3% (1,240 名/2,092 名) であった。マラリアー斉検査・治療後には、陽性と診断された住民に対し、治療薬を正しく試用したのかなどフォローアップミーティングを実施した。 なお、本フェーズ前半において、住民に対し蚊帳配布を実施する予定であったが、事業開始前にすでに全住民に対しマラウイ政府より蚊帳が配られていたため、リロングウェ県病院長、National Malaria Control Program 担当者と協議の結果、当初予定されていた時期の蚊帳配布は延期となった。本フェーズ後半においてマラウイ政府より配布された蚊帳のモニタリングを実施する予定であるが、その状況を鑑みて予定通り蚊帳の配布を実施するか、もしくはより効果的なマラリア対策を実行するかをマラウイ政府側とも協議して決定する予定である。 (ロ) 住血吸虫症対策 下記に記述する巡回診療内で、住血吸虫症の症状を訴えた患者 20 名に対し、治療を行った。 (ハ) 母子保健活動 ベースライン調査において、自宅或いは伝統的産婆の分娩介助による出産の割合は約 30% であることが判明した。事業地を担当する保健調査員 (6 名) に対し、母子保健活動に関する講習会を実施し、彼らを講師として、母子保健活動について、村長研修 2 日間 (参加者 34 名)、及び村落保健委員会研修 4 日間 (参加者のべ 133 名) を実施した。村落内に Safe-motherhood (安全な母性) 委員会 (12 名) を設立し、講習会を実施した。なお、母子保健啓発・教育活動については、当初本フェーズ後半で行うこととなっていたが、本コンポーネントの各活動を行う上で、上記の活動主体の母子保健活動についての知識向上は必須であったため、実施時期を早めた。 また、事業地内にて妊産婦健診を 1 回実施し、3 名が参加した。 (ニ) HIV/AIDS の感染予防活動 事業地を担当する保健調査員 (6 名) に対し、HIV/AIDS 感染予防に関する講習会を実施し、彼らを講師として HIV/AIDS 感染予防に関して、村長研修 2 日間 (参加者 34 名)、及び村落保健委員会研修 4 日間 (参加者のべ 133 名) を実施した。

	なお、本フェーズ前半において、Voluntary Counseling and Testing (以下 VCT とする) を月 1 回実施することとなっていたが、村落内での HIV/AIDS へのスティグマが強いこと、マラウイ政府に認可されている HIV/AIDS 検査キットが入手困難なこと、及び VCT を実施できる保健調査員が事業地に 1 名しかいなかったことから、実施できていない。 (ホ) 安全な水の確保 本活動は、乾季に入る本フェーズ後半に実施する予定であったが、事業地内のザビタ小学校の井戸が故障しており、水の衛生環境が悪化する時期にザビタ小学校の生徒が安全な水にアクセスできない状況にあったことから、一部実施を早め、ザビタ小学校の井戸修繕を行った。また、ザビタ小学校井戸管理委員会を設立し、井戸の修繕及び修繕費積立のための収入創出活動や会計業務のトレーニングを実施した。修繕費創出の一環として、井戸の周りのウォーターポイントガーデン（井戸等の余り水を利用し乾季でも野菜などが栽培できる圃場）に 57 本の果樹を植林した。 (ヘ) 公衆衛生改善活動 エコサントイレから採取できるエコサン肥料の効果を事業地に周知するためにデモガーデンを設置し、当会が他の事業地で収穫したエコサン肥料を用いてメイズの比較栽培を行った。エコサントイレのビルダーを村内から選定し（20 名）、エコサントイレ建設講習会を実施した。また、事業地を担当する保健調査員（4 名）、各村長（42 名）、エコサンビルダー（20 名）、デモガーデン農家（6 名）に対し、エコサントイレに関する講習会を実施した。 (ト) 栄養改善活動 栄養改善及び収入向上活動に活用するモリンガの苗木（4,730 本）を各世帯に配布し、配布直後からモニタリングを行った。 (チ) 巡回診療 巡回診療を 1 回（5 日間）実施し、805 名の患者を診察・治療した。巡回診療に参加した、現地医療者（のべ 35 名）に対し、医療技術移転を行った。 (リ) 村落内救急搬送体制の導入 救急自転車 5 台、担架なし自転車 40 台を購入した。（自己資金にて購入）
(3) 達成された効果	(イ) マラリア対策 1. 「蚊帳配布によって事業地での蚊帳普及率を現在の 32% から 90% 以上に上昇させる」という指標については、事業開始直前にマラウイ政府によって蚊帳の一斉配布が実施されており、事業開始時のベースライン調査において、約 90% の蚊帳普及率が達成されていることが確認されている。 2. 「配布した蚊帳の定期的なモニタリング、予防教育活動を通して、全住民の蚊帳使用率を 80% 以上に向上させる」という指標については、本フェーズ後半に蚊帳使用に関するモニタリングを実施して、蚊帳使用に関するデータを取得するとともに、本フェー

ズ後半及び第 2 フェーズを通しての啓発・教育活動により達成を目指す。

3. 「住民のマラリアー齊血液検査時の有病率を 35%以下に減少させる」という指標については、第一回のマラリアー齊検査・治療では、住民の約 50%の 2,092 名が参加し、マラリア罹患率は 59.3%であった（5 歳以下の子どもの罹患率は 62.5%、6 歳以上 15 歳以下の子どもの罹患率は 82.7%と、非常に高い）。陽性者にはマラリア治療薬の投与を実施したが、本フェーズ後半及び第 2 フェーズにおいても、巡回診療内での治療、教育・啓発活動、マラリアー齊検査・治療を実施することにより、有病率の低下を達成することを目指す。

(ロ) 住血吸虫症対策

1. 「巡回診療時における住血吸虫症の患者数を事業開始から事業終了までに半分以下に減少させる」という指標については、第 1 回目の巡回診療時に住血吸虫症の症状を訴えた患者数が少なかったことから、住血吸虫症について、またその症状と健康への影響について知らない住人が多いことが予想される。今後、住血吸虫症に関する教育・啓発活動を実施していく中で、一時的に巡回診療時の患者数が増加することが予想されるが、巡回診療時の治療及び今後の予防教育によって、患者数の減少の達成を目指す。

(ハ) 母子保健活動

1. 「事業地において毎月 2 回、伝統的産婆を講師とした母親学級を開催する。母親学級の最後には毎回参加者に対して当日の講義内容に関する質問を行い、過半数が理解したことを確認する」という指標については、当初予定通り、本フェーズ後半より毎月 2 回の母親学級を実施する予定である。

2. 「事業開始時に事業地における総出産に対する自宅或いは伝統的産婆の分娩介助による出産の割合を調査し、事業完了時までにはその値を半減させる」という指標については、事業開始時のベースライン調査において、自宅或いは伝統的産婆の分娩介助による出産の割合を調査したところ、5 歳児以下の乳幼児において、約 30%が自宅或いは伝統的産婆の分娩介助による出産であった。今後、この指標を達成するための活動の主体となる保健調査員、村長、村落保健委員会、Safe-motherhood（安全な母性）委員会にトレーニングを実施した。

(ニ) HIV/AIDS の感染予防活動

1. 「月に一度の VCT (Voluntary Counseling and Testing) を通して、事業地の全ての住民に対して HIV/AIDS 検査や治療薬へのアクセスを現地保健機関と共に提供する」という指標については、上記「活動内容」に記載した通り、村落内での HIV/AIDS へのスティグマが強いこと、マラウイ政府に認可されている HIV/AIDS 検査キットが入手困難なこと、及び VCT を実施できる保健調査員が事業地に 1 名しかいなかったことから、実施できていない。今後、まずは、妊産婦健診での VCT を実施し、その後、妊婦とパートナーの両方に対して VCT を実施することを目指す。

2. 「講習会やキャンペーンを通して、住民の過半数がHIV/AIDSの予防法に関する知識を得る」という指標については、当初予定通り、本フェーズ後半より実施する。

(ホ) 安全な水の確保

1. 「事業地内で20基の井戸を建設することで、2,000名以上の住民が安全な水にアクセスできるようになる」という指標については、当初予定通り、乾季に入る本フェーズ後半及び第2フェーズを通じて達成を目指す。なお、ザビタ小学校の井戸修繕(1基)により安全な水にアクセスできるようになった人数は、ザビタ小学校の生徒約670名及び、周辺コミュニティ20世帯(約100名)であった。

(ヘ) 公衆衛生改善活動

1. 「事業地における150基のし尿分離型エコサントイレの建設によって150世帯600名以上の住民に対し、持続的な衛生的なし尿処理設備と有機肥料の入手手段を提供する」という指標については、当初予定通り、乾季に入る本フェーズ後半及び第2フェーズを通じて達成を目指す。本フェーズ前半ではその準備段階として、下記活動が行われた。

- ・エコサン肥料を利用したデモガーデンの設置により、事業地にエコサン肥料の便益が広く周知された。
- ・エコサントイレのビルダー(20名)が選出された。
- ・保健調査員(4名)、各村長(42名)、エコサンビルダー(20名)、デモガーデン農家(6名)に対する講習会を実施することで、今後エコサントイレの建設及び管理を住民主体で実施していく体制が整えられた。

(ト) 栄養改善活動

1. 「事業地において2,000本以上のモリンガを植林する」という指標については、モリンガ苗木配布後のモニタリングで、2,049本のモリンガの苗木が活着したことが確認された。

2. 「モリンガの葉を使用した料理方法を定着させる」という指標については、当初の予定通り、本フェーズ後半及び第2フェーズを通じて達成を目指す。

3. 「週に一度、3,000MWK以上の売上げを目標としてモリンガパウダーの販売活動を実施する」という指標については、当初の予定通り、本フェーズ後半及び第2フェーズを通じて達成を目指す。

(チ) 巡回診療

1. 「日本人医師、看護師が地方保健局医師、看護師、助産婦と協働して、2か月に一度の巡回診療を通して、年間2,000名以上の住民を診察・治療する」という指標については、第一回目の巡回診療が実施され、805名の患者を診察・治療した。

2. 「巡回診療を通して30名以上の現地医療スタッフに技術移転を実施する」という指標については、第一回目の巡回診療においてのべ35名の現地医療スタッフが参加し、栄養不良児測定方法、病歴の聴取方法、巡回診療の運営方法、婦人科系疾病に対する診断方法などについて技術移転を行った。

	(リ)村落内救急搬送体制の導入 1. 「事業地の全住民がアクセス可能な自転車救急車を用いた村落内救急搬送体制が構築される」という指標については、自転車救急車を 5 台購入し、今後、体制の構築を目指す。 2. 「この制度は自転車貸し出し収入等によって住民によって自立的に運営される」という指標については、貸し出し用自転車 40 台を購入し、今後、体制の構築を目指す。
(4) 今後の見通し	本フェーズ後半においては、本フェーズ前半に実施した、保健調査員、各種委員会のキャパシティ向上の結果を、事業地全体に波及させていく活動を実施する。また、乾季に入ることから、エコサントイレの建設や井戸建設などの活動を本格化する。なお、当初計画より進捗が遅れている活動については、下記に特記する。 (イ)マラリア対策 当初予定されていた蚊帳の配布が延期になったことから、本フェーズ後半の早い段階で、より効果的なマラリア対策を関係各者と協議し、計画の見直しを行う予定である。 (二)HIV/AIDS の感染予防活動 月 1 回の VCT 実施については、すぐに実施することが困難なことから、まずは妊産婦健診での VCT を実施する。その際、妊産婦にはパートナーとともに健診に来るように促し、妊婦とパートナーの両方に対して VCT を実施することを目指す。その後、村長、村落保健委員会と協議しながら、村落内での VCT 実施の仕組みの構築を目指す。マラウイ政府が認可している HIV/AIDS 検査キットが引き続き入手困難な場合は、他の検査キットを使用して事業を実施できるように、現地保健局と調整を実施する予定である。